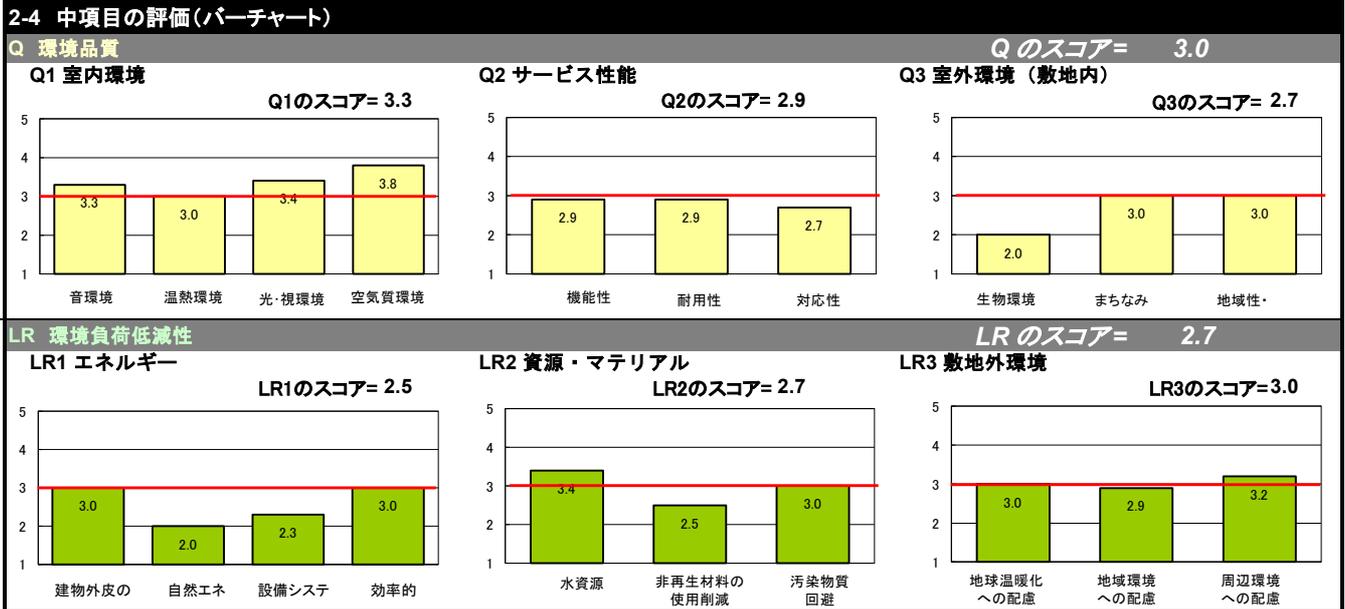
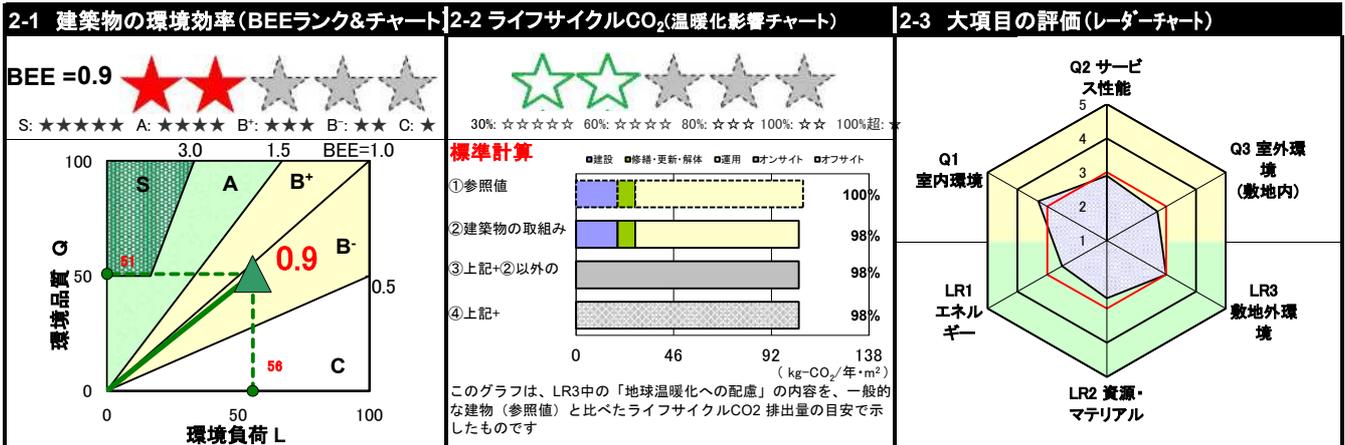


**川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25025**

建築物名称	(仮称)クレヴィスタ八丁畷新築工事
建築主	株式会社インヴァランス 代表取締役 舘 正文
建築物の所在地	川崎市川崎区渡田新町3丁目25-2
設計者氏名、建築士事務所名	三宅 良祐 株式会社インヴァランス 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,131.98㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造(壁式鉄筋コンクリート造)
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和9年10月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クレヴィスタ八丁巖新築工事	階数	地上5F
建設地	川崎市川崎区渡田新町3丁目25-2	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	159 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2025年9月26日
敷地面積	1,716 m <sup>2</sup>	作成者	三宅 良祐
建築面積	996 m <sup>2</sup>	確認日	2025年9月26日
延床面積	4,294 m <sup>2</sup>	確認者	三宅 良祐



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	最不利住戸の外皮UA値=0.86	1.5/2.2	3.5
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御	代表住戸はカーテン、庇にて昼光制御している		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.6/5.0	2.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.6/4.7	2.8
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要内装仕上げ材はビニールクロスを計画	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.2/4.0	2.7
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.6</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.6/5.0	2.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.6/5.0	2.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄		評価点		重み係数		全体		
配慮項目	G	W	R	H			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体								
											評価点	重み係数							
<b>Q 建築物の環境品質</b>																			<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>													0.40		-				<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>													0.15	<b>3.3</b>	1.00				<b>3.3</b>
1.1 室内騒音レベル													-			<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音													-			<b>3.6</b>	0.50		
1 開口部遮音性能													-			5.0	0.30		
2 界壁遮音性能													-			3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-			3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-			3.0	0.20		
1.3 吸音													-			-	-		
<b>2 温熱環境</b>													0.35	<b>3.0</b>	1.00				<b>3.0</b>
2.1 室温制御													-			<b>3.0</b>	0.50		
1 室温													-			3.0	0.63		
2 外皮性能													-			3.0	0.38		
3 ゾーン別制御性													-			-	-		
2.2 湿度制御													-			<b>3.0</b>	0.20		
2.3 空調方式													-			3.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>													0.25	<b>3.4</b>	1.00				<b>3.4</b>
3.1 昼光利用													-			<b>3.4</b>	0.30		
1 昼光率													-			5.0	0.50		
2 方位別開口													-			1.0	0.30		
3 昼光利用設備													-			3.0	0.20		
3.2 グレア対策													-			<b>4.0</b>	0.30		
1 昼光制御													-			4.0	1.00		
3.3 照度													-			3.0	0.15		
3.4 照明制御													-			3.0	0.25		
<b>4 空気質環境</b>													0.25	<b>3.8</b>	1.00				<b>3.8</b>
4.1 発生源対策													-			<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質													-			4.0	1.00		
4.2 換気													-			<b>3.6</b>	0.38		
1 換気量													-			3.0	0.33		
2 自然換気性能													-			5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮													-			3.0	0.33		
4.3 運用管理													-			-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視													-			-	-		
2 喫煙の制御													-			-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>													0.30	-	-				<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>													0.40	<b>3.0</b>	1.00				<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ													0.57	<b>3.0</b>	0.60				
1 広さ・収納性													-			-	-		
2 高度情報通信設備対応													-			3.0	1.00		
3 バリアフリー計画													3.0	1.00		-	-		
1.2 心理性・快適性													-			<b>3.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観													-			3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース													-			-	-		
3 内装計画													-			3.0	0.50		
1.3 維持管理													0.43	<b>2.5</b>		-	-		
1 維持管理に配慮した設計													0.50	2.0		-	-		
2 維持管理用機能の確保													0.50	3.0		-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>													0.30	<b>2.9</b>					<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振													0.50	<b>3.0</b>		-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													0.80	3.0		-	-		
2 免震・制震・制振性能													0.20	3.0		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数													0.30	<b>3.1</b>		-	-		
1 躯体材料の耐用年数													0.20	3.0		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													0.20	2.0		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													0.10	4.0		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													0.10	3.0		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													0.20	5.0		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔													0.20	2.0		-	-		
2.4 信頼性													0.20	<b>2.8</b>		-	-		
1 空調・換気設備													0.20	3.0		-	-		
2 給排水・衛生設備													0.20	3.0		-	-		
3 電気設備													0.20	3.0		-	-		
4 機械・配管支持方法													0.20	3.0		-	-		
5 通信・情報設備													0.20	2.0		-	-		

3	対応性・更新性								3.0	0.30	2.7	1.00	2.7
	3.1 空間のゆとり								-	-	2.4	0.50	
	1 階高のゆとり								-	-	2.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性								3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出	G	W		H				2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G							3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮								3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H				3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	2.7
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	2.5
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H				3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用		W		H				2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		W		H				2.3	0.50	-	-	2.3
	集合住宅以外の評価								-	-	-	-	
	集合住宅の評価								2.3	1.00	-	-	
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H				-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H				-	-	-	-	
	集合住宅の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H				3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H				3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護		W		R				3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水								4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		W		R				2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R				3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R				3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R				1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R				3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R				3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W						-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W						3.0	1.00	-	-	
	3 冷媒		W						-	-	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		W						3.0	0.33	-	-	3.0
2	地域環境への配慮								2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H				3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R			3.0	0.25	-	-	
	2 污水処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R			2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	
	2 振動								-	-	-	-	
	3 悪臭								-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								「光害対策ガイドライン」の過半を満たしている				
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								5.0	0.70	-	-	
									3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	2.0	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0	-	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0	-	1.0	1.0	2.0	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-

<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	1.0	-	-	3.0	2.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標**

<b>Q1 室内環境</b>															
2.1.3 外皮性能		窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 0.9 η AC 2.5 η AH -													
3.1.1 昼光率		昼光率 6.8%													
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口率 30.8%													
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.1.1 広さ・収納性		執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡													
1.1.2 高度情報通信設備対応		コンセント容量 0.0 VA/㎡													
1.2.1 広さ感・景観		天井高 0 m													
1.2.2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 2.0%													
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定耐用年数 0 年													
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔 10 年													
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔 20 年													
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		想定必要間隔 10 年													
3.1.1 階高のゆとり		階高 2.76m m													
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 49.2%													
3.2 荷重のゆとり		床荷重 - N/m2													
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出		外構緑化指数 60% 建物緑化指数 0%													
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率 40% 水平投影面積率 10% 地表面対策面積率 28% 舗装面積率 16%													
<b>LR1 エネルギー</b>															
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI/BPI <sub>m</sub> - 日射等性能等級 等級4 相当													
2 自然エネルギー利用		自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0 採光を満たす住戸数 0.075 通風を満たす教室数 0 通風を満たす住戸数 0.075													
3 設備システムの高効率化		太陽光 #REF! 太陽熱等 #REF! 蓄電池 #REF!													
3a.3t 非住宅部分		BEI/BEI <sub>m</sub> 再エネ - 無 - オフサイト再エネ有 - -													
3b.c 集合住宅の評価		一次エネ削減 再エネ 3% 無 3% 仕様基準で評価する - -													
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用率 0.0%													
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -													
2.5 持続可能な森林から産出された木材		使用比率 0.0%													
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)													
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP)													
3.2.3 冷媒		オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 8													
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比 112% 棟間隔指標Rw 1.00 地表面対策面積率 37.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 290㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 26.505 m 基準高さHb 9.76 m 緑地 327㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡													